

ナシ「幸水」の大苗育成時の仕立て方法と土量

[要約]大苗育成2年目にポットを斜めに設置して先端新梢を真上に伸ばす斜立植え直伸栽培は、樹冠拡大に有効である。土量が90Lで長方形に根域を制限した大苗は、30Lの円形ポットを利用した大苗よりも移植後の生育が優れ、移植後3年目までの累積収量が多い。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果
区分

技術情報

1. 背景・ねらい

本県のナシ栽培は樹齢30年を超える高樹齢園が多くあり、高樹齢化による生産力の低下が問題となっている。抜本的な解決方法である園地の新改植が進まない現状の中、改植に伴うリスクや生産者の経済的な負担を少しでも減らすため、改植後出来るだけ早くナシを結実させ、早期に目標収量を確保する必要がある。そこで、ナシ園の若返りを図るため、効率的な大苗育成等による早期多収生産技術を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 主枝長は、大苗育成2年目の仕立て方法の違いにより有意差がみられ、直伸区は45度区よりも長い(表1)。
- 2) 「幸水」5年生樹(移植後3年目)までの生育は、大苗育成時の土量により発生した新梢数、総新梢長に有意差がみられ、90L区は30L区よりも多い。(図1)。
- 3) 移植後3年目までの累積収量は、大苗育成時の土量の違いにより差がみられ、90L区は30L区よりも多い(図2)。
- 4) 平均果重及び果実糖度は、大苗育成時の仕立て方法、土量による差はない(図3)。
- 5) 移植後1年目に着果させると果実肥大が不良となる(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 台木の種を播種し、栽培品種を接木して育成した自家生産の苗木を使用して、大苗を育成する。
- 2) 大苗育成のための遮根方法は、土量30Lでは不織布の円形ポットを利用し、土量90Lでは長方形の遮根シートを利用する。
- 3) ポットを利用した大苗育成では、灌水施設の整備が必須である。
- 4) 土量90Lの大苗は、1人で苗木の移動ができない。
- 5) 移植は秋季(11月中～下旬)に実施し、植え付け後十分に灌水し、敷ワラをする。
- 6) 移植後、夏期(7～8月)はスプリンクラーや灌水チューブなどを設置して定期的に灌水する。
- 7) 移植後1年目は、すべての蕾を摘らいし着果させない。

4. 具体的データ

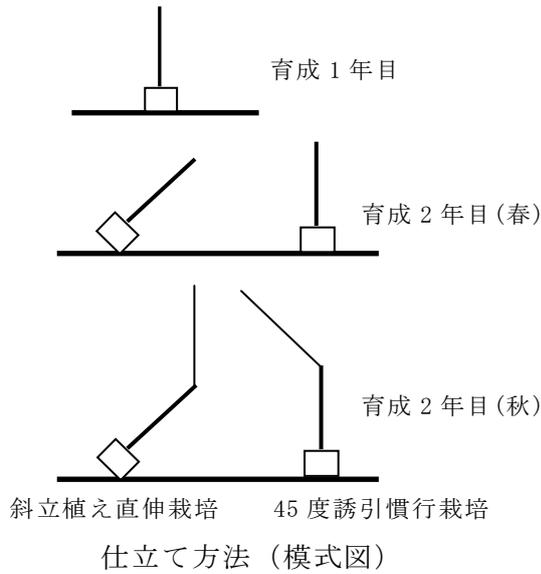


表1 大苗育成方法の違いが主枝長に及ぼす影響

処理区	主枝長(cm)
	苗育成2年目
直伸・90L	184 a
45度・90L	107 b
直伸・30L	194 a
45度・30L	118 b
F検定	**
直伸	189
45度	112
有意性	***
90L、長方形	145
30L、円形	156
有意性	n.s
交互作用	n.s

注)**:1%、***:0.1%で有意。n.s:有意差なし。
注) 苗育成1年目は、4月中旬に台木に接木した。台木は30Lポット及び不織布で土量90Lに根域を制限した条件で1年間育成した。

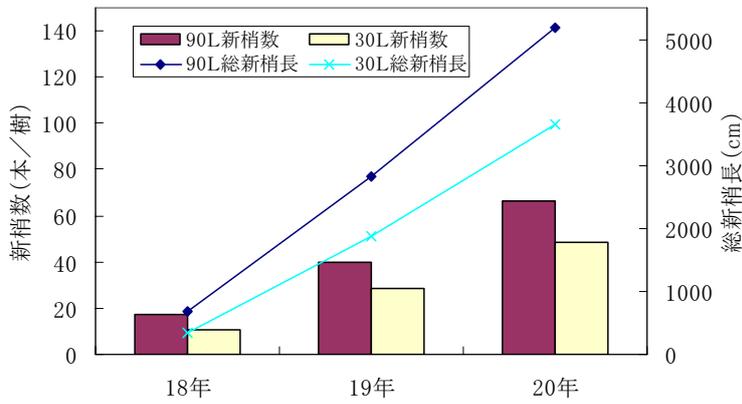


図1 大苗育成時の土量の違いが新梢数、総新梢長に及ぼす影響

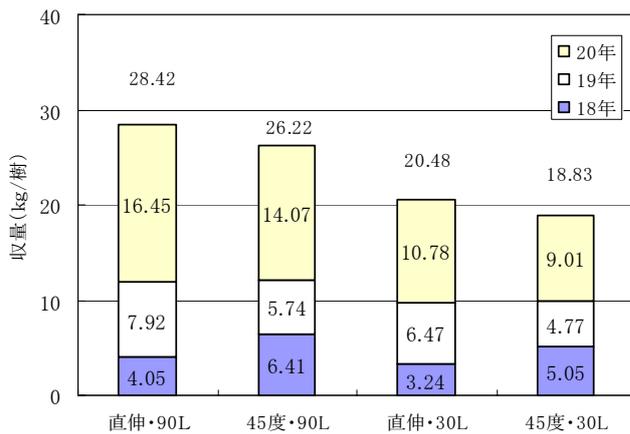


図2 大苗育成方法の違いが収量に及ぼす影響

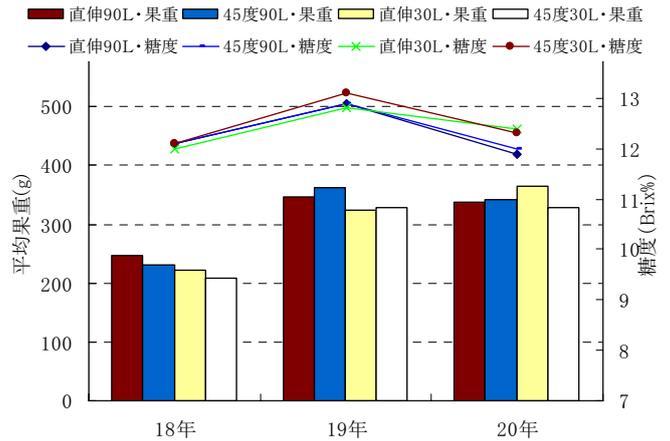


図3 大苗育成方法の違いが果重及び糖度に及ぼす影響

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ナシ幸水の根域管理改善による早期多収及び高品質果実生産技術の開発・平成 16～20年・プロジェクト研究チーム ナシグループ